

NHK for School「ココロ部！」を活用した判断力の育成

横浜市立桜岡小学校 教諭 松村 祐希

小学校6年生 道徳 ココロ部！

『ココロ部！』は、小学校5・6年生、中学生の子どもたちに、考える力とコミュニケーション力、‘道徳力’を楽しんで身につけてもらう番組。人は生きているといろいろな“ピンチ”にあふ。『あっちも大事だけど、こっちも大事』『自分の気持ちを優先するか、他人の気持ちを優先するか、それとも…』そんな時どうすれば良いか、じっくり話合うことで、自分の生き方について考えていく。

【授業の概要】

本学級の児童の中には、学力の低い児童や他の国籍に繋がる児童も在籍しているため、教科書教材だけでは内容の把握が十分にできないと判断した。その実態を考慮した結果、番組活用を行ったことで視覚的に理解を深められ、さらに他の児童に対しても、児童同士の対話を広めることができる環境づくりを行うことができた。そのことから、「考え、議論する道徳」の充実化を図り、判断力育成に繋がった。

【授業デザイン】 小学校6年生 特別の教科 道徳

主題名 親切、思いやり B-7

ねらい 資料「だれを先に乗せる？」の誰を優先して乗せるかについて考える対話活動を通して、外見や都合にとらわれることなく、相手の様子や状況を推し量り、誰に対しても相手の気持ちや立場を考えて親切にしようとする態度を養う。

<導入 5分>

○人に親切にするのはどんな時でしょうか。また、親切にできないのはどんな時でしょうか。

○誰にでも親切にするためにはどんな気持ちや考えが大切か考えましょう。

<展開 30分>

番組視聴（前半）

○（3人しか車に乗せることができない）コジマくんはどうしたらよいと思いますか。

話し合い

番組視聴（中盤）

○（困っている人たちの状況が明らかになってきて）コジマくんはどうしたらよいと思いますか。

番組視聴（後半）

<終末 10分>

◎みんなで納得できる方法はなんでしょう。

○誰にでも親切にするためには

どんな気持ちや考えが大切だろう。

話し合い

【今回の実践における番組効果】

2. 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
 4. 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。
 5. 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。
- 1 2. よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。

【授業デザインの工夫】

●とにかく交流すること

互いに考えを伝えたり、認めたり、自分の正しさを確認したりできる。そのためには話し合いの時間の十分な確保が必要。

●基本の流れをつくること

道徳の授業の基本の流れが児童の中で定着することで、児童も授業に自ら参加するようになる。特に、今回番組視聴の際には分断視聴をさせている。「キミならどうする？」という投影的発問から、問題意識を自分事として捉えやすくさせることができる。番組の前半と後半を比較することで、児童が葛藤する場面を必然的に作るができる。

●ワークシートと黒板を活用すること

自分の思いを言葉で表現することが苦手な児童でも、自由に考えを表現できる。また、ワークシートから児童の変容を見取れ、評価にも活用することができる。板書も、児童が意見を比較、深化するためのユニバーサルデザインとして考えることができる。



【成果と課題】

児童の実態として、道徳の授業以外の場面でも挙手して発言する児童や素直なつづやきが増えたことが成果として挙げられる。「ココロ部！」を何度も視聴したことで、こちらから指示を出さずとも児童自ら自然と話し合いを行えるようになった。板書計画もユニバーサルデザインを意識することができ、それを見て児童もフィードバックを行っていた。そして何より、学習の苦手な児童がワークシートに自分の思いをびっしりと書いていたり、多様な解決方法を考える中で、今までの自分とこれからの自分を見つめ直そうとする児童が現れたことで、番組活用のよさを再確認することができた。「今の自分の立場と比較して考える」時間をもう少し確保することで、今回の学習で考えたことを実践に生かし、判断力をより養うことができると考えた。